

## 師走らしく

平成24年12月 理事長 片山喜章

「師走。先生たちが走りまわる忙しい月」と昔から言われてきましたが、昨今は、年がら年じゅう、先生も国会議員のセンセイ方もバタバタしている感が否めません。保育園や幼稚園における新制度設計も、春を求めてはいるものの、いまはまだ迷走したままです。

より良い保育論や子育てのあり方においても、「生きる力を養う」「子どもに寄り添う」等“口あたり、耳あたりの良いスローガン”が闊歩する一方で、国として、理念が形にならないまま、各園でひとり歩きをしています。例えば“社会規範を育む”という目標があっても具体的な方法を見つけ出すのが難しい時代になりました。先生にガツンと叱られて身につく子とガツンと言われるほど反発する子は昔からいました。最近、ガツンと言われると素直に納得したような態度を示しながら、時間が経つと溜まったものが爆発して、大事件を起こすケース、我が子にさえガツンと言えない親も居て“子どもが子どもらしく生きられない時代”を人類史的に俯瞰しながら、子ども以上にストレスの多い時代を生きている大人たちが真摯に“こども”を理解しないと武力紛争や暴動が起こらない国、日本で在るが故に人と人をつなぐ関係性が希薄で且つツンツンし、社会の内側から徐々に崩れる危険性を感じます。

一体全体、どうすればよいのでしょうか？ 「保育や教育における一定の知見や達見」が、時代の急激な変化とともに段々、変貌しています。20年ほど前「自己実現」＝自分らしくあることが教育の目標であったのが、今は「関係性」＝コミュニケーション能力の育成というように、文言が進化しました。“君は、君のままでよい”とは、言えなくなったのです。

主体性の基本は「選択」できることですが、選択肢が多すぎると、思考が深まらないこともわかってきました（今回の衆院選は、国民自身の迷いの象徴であり、時代が変わる兆候？）

ごく最近、なかはら、はっとの職員と話し合っ共感を得ているのが、毎朝、礼拝のように、クラス全体で、数分間、瞑想する時間の必要性です。また、乳児の「毎日サーキット」のように、幼児も短時間の「毎日ふれ合いゲーム」を定番化してはどうか、ということです。

つまり、決まった活動を概ね決まった時刻に毎日、短時間行って、生活にリズムをつくっていくことが大事ではないかと考え始めています。そこから、自然に生活習慣の自立も達成しやすくなると期待できます。そして、再三、訴えても、うったえても困難な事があります。

《大人たちが“子ども心”を發揮して、子どもとしっかり遊び込む日常を意図的につくりだすこと。この重要性は、今現在、日本の最大級の保育テーマであると、私は断言できます。そこから、自然に子どもの方から大人の方に信頼が寄せられ、それが子どもどうしの良好な関係性を築き、“社会規範”を育む大きな手立てになりえると見通せます。》

私たちは、これまでの自分と子どものために変わろうとする《2つの自分》の間を行ったり来たり、行ったり来たり、年がら年じゅう、バタバタする存在であるべきかもしれません。